

10年目の食と環境まつり

食・みどり・水を守る道南地区労農市民会議

3日前までは台風の影響が懸念された10月5日、前日までの雨が嘘の様に晴れ渡った秋空の下、函館市・旧シーポートプラザ前広場において「第10回食と環境まつり」が開催され、組合員・家族・退職者のみならず、前年にも劣らない多くの市民で賑わいを見せた。



今年で10年目を迎える大きな節目での取り組みでもあり、地域に顔の見える活動・市民と共に創る運動の一環としての更なる拡大や、労農提携の強化を基本とした食の安心・安全の浸透、豊富な道南食材の地産・地消と併せ、身近な環境課題から考えあえる素材の提供を課題として、徐々にではあれ市民層に定着の兆しを見せ始めているイベントでもある。

残間実行委員長（食・みどり・水を守る道南地区労農市民会議議長・連合渡島地域協議会副会長）の挨拶で幕が切って落とされた食と環境まつりは、開始前から多くの来場者が訪れていたが、販売開始の合図とともにお気に入りのブースに殺到。事前準備に余念がなかったブーススタッフも必死で対応を行っていた。

人気ブースの筆頭はやはり道南地区農民連盟ブースの「朝採り野菜の格安販売」で、消費税のアップによる家計への負担と諸物価の高騰を受け止めた主婦の努力が垣間見られるようでもあった。屋台の定番「焼き鳥」「焼きそば」「たこ焼き」の人気も高く、ブースの前には行列ができるほどの盛況ぶりでもあった。

今年は、日朝連帯函館市民の会が本場のキムチを、また、道南のコーンを使用したスープで参戦したブースや、各地区連合は、それぞれの地域推奨品を持ち込んで売り込みに必死の努力を行っていた。



環境ブースも多彩なメニューで臨み、支援米活動パネル展では、受け入れ先のマリ共和国の最新写真を紹介して「世界の飢餓」で苦しむ人々への理解を求め、水資源を扱ったブースではパネル展の他にも、函館の水の試飲会や道内の様々なペットボトルが紹介され、理科実験教室では様々な変化を学んだり、木の葉を使った万華鏡づくり、トランジスタラジオ作りも好評を博していた。またペットボトルロケット工作は親子で頑張る姿も見受けられ、子供たちのはしゃぐ姿に目を細める親の姿が印象的でもあった。



環境課題をテーマとし、簡単な課題からしっかりと受け止めてもらうことを目的としたスタンプラリーには多くの子供たちが参加し、親と一緒に回ったり、友達同士で回って問題を解き、7個のスタンプをゲットして事務局が準備をした景品と交換をしていた。

今回の環境課題では国際的な大きな課題となっているプラスチックごみ問題について、みんなで考え合う入り口としての位置づけを行い、可能な限り実践を行っていくことが実行委員会で確認しあったことを受け、食のブースで使用するトレーや容器を「紙」に変える取り組みを行った。プラスチックと比較すればコスト高になるものの、様々な生物へ与える影響や将来を考慮して、各ブースで創意工夫した取り組みを行うこと

とした。

例年ならば、時間帯によって来場者の波が変化をしていたが、今年の場合は開会前から閉会直前まで、来場者が途切れることなく訪れていたのも大きな特徴であった。

十分な休憩や食事をする時間もなく、最後まで汗だくで頑張った各スタッフは、疲れと空腹感と満足感が入り混じった、複雑な表情で閉会を迎えることとなった。

14時、手塚・副実行委員長（道南地区農民連盟委員長）の閉会の挨拶が行われ、最後に3JAと農民連盟の提供による「新米抽選会」が行われ、いつもながら悲喜こもごもの模様がみられ、記念すべき第10回食と環境まつりを終えることとなった。

